

『軌跡』 巻頭言

三つの願い

校長 檜尾 尚樹

今年度は新型コロナウイルス感染拡大による休校が続き、いつもの年とは違った一年のスタートとなりました。「未来のことはわからないけれど、希望をもって生きる」心に刻んでおいて欲しい言葉です。

これからの学校生活一日一日を大切に送ってもらいたいと思い、三つの願いを書きます。

1 「夢を目標に」

本荘高校へ入学してきた生徒諸君は皆それぞれの夢をもって入学してきたと思います。その夢を今も持ち続けていますか。夢が叶うよう努力していますか。私は「夢」とは、「こうであればいいな」「こうあって欲しい」という願望だと考えています。「夢」を現実のものとするには「目標」に変えることが必要です。「目標」とは「こうしたい」「こうありたい」と覚悟を決めることだと思うからです。「夢」を「目標」に、「願望」を「覚悟」に変えた時、自分の行動も変わります。辛いこと苦しいことがあっても、目をそらさずに頑張れるはずですよ。

2 「そつたくどうじ啐啄同時」

「啐啄同時」とは、禅宗の教えです。「啐」の意味は、鶏が卵からかえる時、殻の中から雛がつつく音です。「啄」の意味は、母鶏が殻を外から突き破ることをいいます。学ぼうとする者と教え導く者が共鳴し合う時、大きなことを成し遂げられると教えてくれます。

目標を叶えるためには、まず自分自身が努力するのが一番大切です。しかし、自分だけで出来ることには限界があります。学業でも部活動でも、時に信頼できる先生方から教え導いてもらうことも必要です。この本荘高校において、生徒諸君と先生方が共に力をあわせ、目標実現に向けて頑張ることを期待します。

3 「人間を磨く」

ある一流スポーツ選手が言っています。「自らを向上させたいと望むなら、毎日歯を磨くように、一つのことを愚直にやり続けることである」

人間は皆個性的な存在です。誰一人として、同じ考え、同じ能力をもつ人はいません。しかし、誰もがやろうと思えば出来ることがあります。それは「続ける」こと。「続ける」ことによって技が磨かれます。技が磨かれれば、心が磨かれます。心が磨かれれば、人間が磨かれます。そうして技も心も一流の人間になるのだと思います。

私は伝統校の強さとは、自分の理想とすべき人が身近にいて「自分も出来る」と希望を与えてくれることにあると考えています。この『軌跡』は、卒業生である先輩が後輩である皆さんにあてたメッセージです。このメッセージを心の灯火としながら、望む道を自信を持って進んでください。近い将来、この『軌跡』に皆さん自身が自らの喜びのメッセージを記し、後に続く後輩達に伝統のバトンを渡してくれることを願っています。